

各透析施設の先生方、スタッフの方 日々の診療大変お疲れ様です。

透析室における 新型コロナ対策について、貴重な時間をお借りして、お話しさせていただきます。

山形県においても新型コロナ感染患者の急増があり、現在で、450名近くの発生をみております。透析患者は、定期的に集団で、治療を長時間行うという感染対策上は、きわめて、リスクの高い集団です。ひとたび感染すれば、透析室が、クラスターになる可能性が高いです。また、(10月時点東京都のデータですけど) 感染症患者の一般人口の致死率2%以下と比較して、透析患者は、14%と非常に高値です。透析患者さんは、重症化しやすいので、感染者は、原則入院になります。山形県では、新型コロナ感染透析患者の入院は、個室管理が基本となりますが、多く見積もっても確保できるベッドは県全体で、約20床ほどです。これ以上増えたら、入院管理ができず、入院まで、自宅待機になる可能性あり、現在の透析施設で、透析をおこなっていただくこととなります。現に医療がひっ迫している都市部では、そういう状況になっております。そうならないように、感染予防には、十分注意を払う必要があります、現時点でも施設ごと十分な対策を行っていると思いますが、さらに徹底させていただきたいと思えます。

具体的な対策・詳細につきましては、透析学会のホームページに記事.参照文献・アドレスが、ありますので、必ず、一回は、目を通して下さい。

要点を述べますと

透析室での感染対策の第一は、持ち込み症例を防ぐことです。患者さんには、毎日の

体温測定と健康状態の把握を指示してください。発熱、咳、下痢、味覚嗅覚障害などの症状がある場合は、来院前に透析施設に必ず電話連絡するように指導してください。また、患者に常時マスクを着用すること、手指衛生の徹底などの協力を依頼する必要があります。そして、患者および職員には、感染拡大地域への移動、不要不急の外出や旅行、集団での会食は控えるよう指導してください。いくら優れた対策をたてても、それを実施する患者やスタッフが全員で取り組まなければ、これらの対策を守らない患者やスタッフから感染が拡大します。患者とスタッフの確実な感染対策の取り組みが、感染予防に極めて重要となります。ぜひ皆様のご協力をよろしくお願いいたします。